

## ソメイヨシノの寒風害事例

長崎県総合農林試験場 宮崎 徹

南高来郡国見町神代の淡島神社のソメイヨシノが、寒風が原因と思われる被害を受けたので報告する。

## (1) 被害歴

大正7～8年に植栽されたソメイヨシノが咲かないようになったので、昭和40年に2年生苗を、北側の台地を中心に植栽した。植栽後3年目から花が咲き、その後はよく花を付けたが昭和51年から急に咲きが悪くなり、特に52、53年は悪い。台地下の土手には前述の古木も数本残っているがやはり咲きが悪い。

## (2) 被害症状

新芽（花芽、葉芽とも形成されている）が枯死し、一部小枝も枯れている。昭和53年4月7日の調査時点で、台地の北側ではほとんど花が咲いていない。単木的にみると先端部に枯死が多い。

## (3) 現地の状況

1. 面積 約1 ha（台地と土手） 約500本
2. 地況
  - イ. 海岸からの距離 約0.7km（北側に海）
  - ロ. 海拔高 約20m
  - ハ. 傾斜方位 南北に長い台地で先端は北北西向
  - ニ. 傾斜度 台地の平地とその土手

## (4) 考察

原因となる可能性を含む要因（紙面の都合で略）について検討を加えたが、新芽、小枝の枯死の重要な因子は寒風であろうと推察した。まず、北側ほど新芽の枯死が多い。土手下（西側）の風当りのや・少ないところでは花数は少ないが先端まで、また北側でも樹木（低木）で下部を保護されたものは下枝に花がついている。南側で北～北西の寒風が当りにくい所では比較的全体に花のつきがよい。また北西の海風から保護されている近くの神社では、よく咲いている。このような状況から、北～北西の海からの寒風が影響したであろうと推察した。その裏付けとなる現地の気象観測資料がないので、比較的近い西諫早、島原、湯江（北

高）の6年分のデータを調べ、北～北西に海のある現地に一番近いと思われる西諫早の資料を使うことにした。図-1、2には、日平均気温、最低気温、北～北西の風力を1～3月分示してある。さらに、植物生長最低温度（5℃）と長崎海洋気象台の開花宣言日を記入してある。一般に5℃以上の日が数日続くと植物は活動を始める。その時点(a)から開花宣言日(b)の間で、ある程度高温の日が続いたあと急に下り、北～北西の風の強く吹く頃が疑わしい。

## ①昭和48

1～2月は暖冬で活動も早く、(a)以降低温期があるが、寒風と重っていない。3月の低温で開花は遅い。

## ②昭和49

3月中旬に低温期があるが、その前の暖さで十分充実し終っていたものと思われる。そのため開花が早い。

## ③昭和50

2月上旬一時暖い日があるが、その後の低温期が長く(a)も遅れたものと思われる。また開花直前に寒風が続き開花が遅れている。

## ④昭和51

比較的暖い冬で、特に2月中旬の高温期に、芽が急激に動いたと思われるあと、風はあまり吹いていないが低温になり、さらに高温、低温と2回くり返している。また開花前に暖かい日が続く開花は早い。

## ⑤昭和52

非常に寒い冬でそれまで停止していたものが、2月下旬の高温期で、一斉にかつ急激に芽が動きだしたものと思われる。その直後、かなりの低温と寒風にさらされている。

## ⑥昭和53

暖冬気味で経過して(a)も早かったと思われるが、2月中～下旬に低温と寒風を受けている。3月中旬にもや・長期にわたり低温と寒風が続くが、このため開花が遅れている。

このように、昭和52、53を中心に寒風害であろうと推察したが、このようなことが続くと樹勢にも影響が現われるものと思われる。

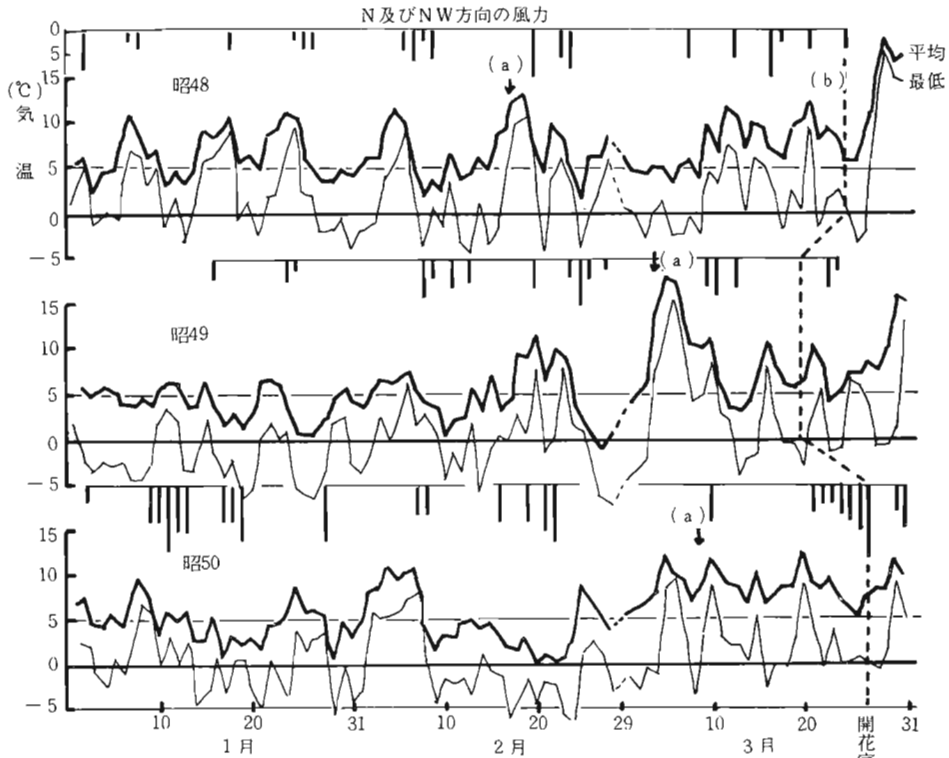


図-1 日別気温(平均, 最低)と寒風(N及びNW方向)  
 —被害の出る前の3ケ年—

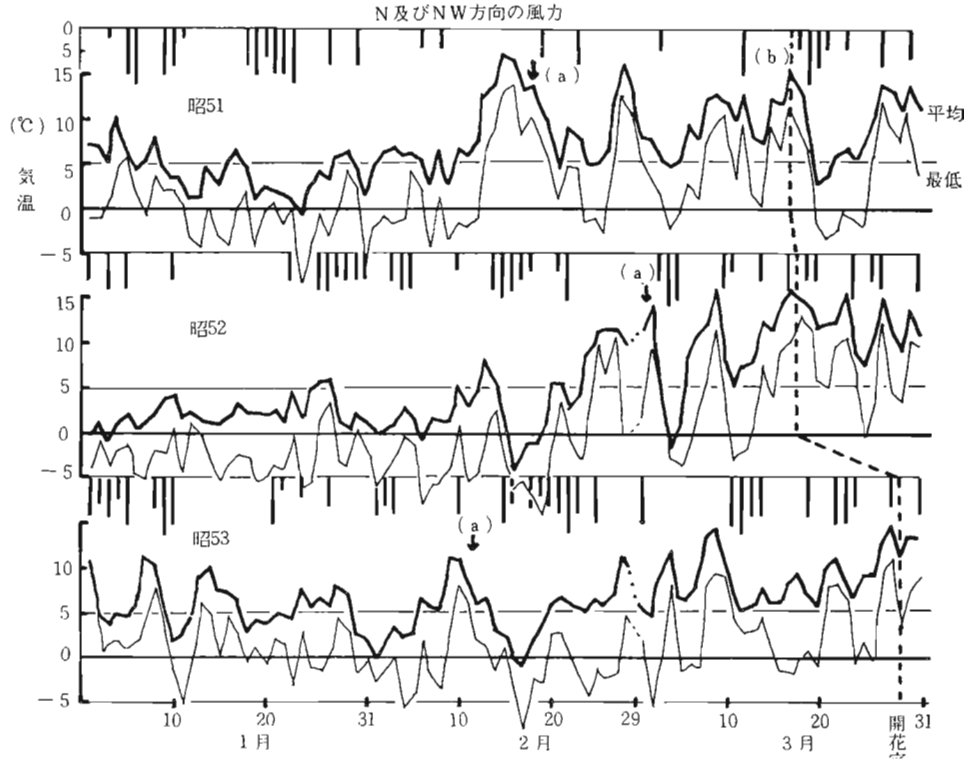


図-2 日別気温(平均最低)と寒風(N及びNW方向)  
 —被害が出た3ケ年—